

図画工作科

大峯 誠典
谷本 克典

1 図画工作科の本質について

私たちは、図画工作科の本質を次のように考えている。

造形に対する価値観を広げ
創造性を培うこと

私たちが生活する様々な場面において、身のまわりにある造形（形と色で構成されるすべてのもの）と私たちは密接にかかわり合っている。デザイナーやアーティストのみが、造形と密接にかかわり合っているのではない。好みや雰囲気という範疇ではあるが、多くの人にどつても互いにかかわり合う存在なのである。つまり、日々私たちは、目の前の対象（造形物や画像など）から働きかけられ、よさや美しさを感じ取ったり、よさや美しさを感じる色や形でものを選んだり組み合わせたりして働きかけていくのである。色や形に囲まれて生活する私たちは、造形とこれまで密接にかかわってきたし、これからもかかわり続けていく。

人は誰でも身近な造形に働きかけられ、働きかける中で成長していく。働きかけられ、働きかける関係は、互いに一体となり、補い合っていくものである。人は成長過程で様々なものに自らの感覚を働かせ、よさや美しさという造形的な価値を見出していく。どんなものによさや美しさを感じ取るか、見出していくか、価値を受け入れる入口が広ければ広いほど新たな価値との出会いがあろう。また一方では、他の価値をも認め、大切にするようになるのではないかだろうか。そうなることで、今までとは違う新しいアプローチで造形に働きかけようとする力が生まれてくると考えられる。つまり、造形に対する「価値観」を広げることが造形とのかかわりをより豊かにするのである。

しかし、どれだけ価値観が広がっても、その価値観に合う造形（自分の思いにかなった造形）への具現化ができなければ、満足のいく造形とのかかわりは生まれてこない。自ら発想し、構想を練り、巧みに手や全身の感覚を働かせて造形とかかわる「創造性」も造形とのかかわりをより豊かにするために欠かせないものである。

様々な事象からよさや美しさを感じ取り、その感じ方を広げ、内なる思いをよりよく具現化

できる創造性を身につけていけば、よさや美しさを大切にして生活を豊かなものにしようと/or>人、自ら考えて目的や思いにあったものを創造的につくる人への育ちとなるであろう。したがって、私たちは、様々な材料や用具に繰り返しかかわる体験を通して「造形に対する価値観を広げ、創造性を培うこと」を本質としてとらえた。

2 本質にもとづく基礎・基本について

材料や用具を適切に扱い、手の動きよくできただとしても、よさや美しさの判断が不十分であれば、表現の味わいは浅くなり、自分が納得する表現になる可能性は低い。

逆に、対象から鋭敏によさや美しさやを感じることができても、発想よくしかも念入りに計画を立てられなかったり、材料や用具を適切に扱えなかったりすれば、同じように納得する表現にはならないであろう。

自分の納得できる表現をし、つくり出す喜びを感じるためには、次の2点が重要であるとらえ、図画工作科の基礎・基本と考えた。

- ・様々なよさや美しさを味わうことができること
- ・自分の思いに合わせて表現の仕方を考えたり、材料や用具を扱ったりできること

一つは、自らの価値観をもとに新しい価値観を受け入れ、広げていけることである。もう一つは、自らの価値観に支えられた自分の思いを表現するために表現の仕方を考え、用具や材料を使う、発想や構想、創造的な技能にかかわることである。

3 図画工作科における「学び」について

子どもたちが学びの対象となる造形に出会ったときに働きかけられ、働きかけるという造形とのかかわりが生まれてくる。そのもののよさや美しさなどを自分なりに感じ、よりよく、より美しくするためにどう働きかけようかと考え始め、自分なりの造形活動に取り組むようになる。自分を取り巻く様々な価値と出会い、自分の価値観を広げ、自分のもてる力を最大限に發

揮して自分なりの表現を追求していく。この子どもの学びは、次の4つの場においてより深まっていくと考えている。また、全体論の「4つの培いたい力」もこれらの場において培われていくものとも考えている。

- ・既存の価値観をもとに造形に働きかけ、何をすべきか見つける場 → 「発動する力」
- ・自分の表したいことに合わせて発想し、構想を練り、自分らしい表現をする（課題解決する）場 → 「見通す力」
- ・自分の価値観と様々な価値観を関連づけて、自分なりの価値観を広げる場 → 「ネットワークする力」
- ・自らをふり返り、自分の価値観の広がりや創造性の高まりを認識する場→「見つめる力」これらの場は、独立した場でもあり、互いに関係し合う場もある。「4つの培いたい力」においても、それらの力はその場のみで培われるのではなく、題材や単元の流れによっては、異なった場でも培われることもあるだろう。子ども自身がそれぞれの場で、自分のもてる力を駆使して学習対象にかかわっていくことで、自分の思いに合わせて表現の仕方を考え、材料や用具を扱うこと、様々なよさや美しさを味わうことができるようになると考えられる。

4 単元を構想するにあたって

図画工作科における「個」の確立した姿とは、「自分らしい表現を追求していく姿」と答える。それぞれの内なる思い（思いは、徐々に広がっていく）をどのように外に実現しようかと、ものを選んで使い、形や色を探り、具体的に表していく。それは、個々の価値観や創造性にもとづいた行為であり、徐々に自分の納得のいく表現へと進展していくことである。そのため、以下に述べる視点にもとづいて単元を構想していく。

(1) 一人一人の題材への働きかけを促す

子どもの表現したいという欲求は、つくってみたい、やってみたいという欲求である。その欲求を高めることができ、自己の価値観を自覚し、創造性を駆使して造形に働きかける大きな原動力となる。そこで、題材に出会うときにそのもののよさや美しさ、行為そのものの楽しさや行為の結果生まれるよさ、美しさが十分に感じられるようにすることが大切となる。そして、感じたことを話し合ったり、自分だったらこうしたいなど、自分なりの価値を表出し合ったりすることで、価値や表現の多様性、楽しさが実感できるであろう。そして、さらに表現への欲求

が高まり、自分ならば、何をどのようにつくるか探求する活動が始まっていくであろう。

また、題材への働きかけに必要であれば、材料や用具の扱い方を子どもたちの目前で実際にやっていく。それらを理解することで、表現への自信につながるだけでなく、表現への意欲をさらに高めていくことになると考えている。

(2) 一人一人の自分らしさの現れを促す

表現の自分らしさは、一人一人の価値観や創造性の現れである。その現れは、主題であったり、表し方であったり、行為であったり様々である。それぞれの“自分らしさ”に共感し、より積極的に表現に取り組めるよう留意したい。そこで、一人一人の思いや意図を把握し、それぞれの“自分らしさ”がより広い場で認められるよう機会を捉え、全体の場に広げていくことを大切にしていく。教師だけが用具・材料、資料・方策の提供をするのではなく、子どもたち相互でもそれらが提供し合えるような学習環境・学習集団をつくっていかなければならない。

(3) 価値の共有化を図り

自分なりの価値観の広がりを促す

表現活動は部分的な単純作業に陥りやすい。表現の過程で、自分の表現を見つめる場を設け、自分らしい表現に向けた新しい課題が見つかるようにしていきたい。最初に発想し構想してきたことと比べてどうなのか、部分だけではなく全体としてみた場合どうなのかななど、その後の活動の新たな指針となるものをもてるようになしたい。また友だちとの相互鑑賞の場も適宜設け、友だちの表現の過程（作品）からも自分の表現にはないよさや美しさといった価値に気づくことができるよう配慮する。そして、個々の気づきを全体の場に広げながら、それぞれの価値観の広がりを促していきたいと考えている。

(4) 自分らしい表現のよさや

自身の変容の自覚を促す

自分らしい表現を追求していく（してきた）姿をふり返り、見つめ直すことで自己の学びに納得できるようにする。そのことは、自分らしい表現をした喜びと新たな自分との出会いとなる。表現の過程の節々で考えたことやつくり方で工夫したことメモに残し、完成した段階での自分の思いやつくり方で努力してきたことを振り返ってまとめていく。この過程を通して、表現の過程の中に点在する自分らしさを見つけ、学びの成就感や自分の表現（作品）を大切にする心情がいっそう高まっていくと考えている。

実践例ー5年ー

(1) 題材名 新しい画用紙で（特徴を生かして遊ぶ）

(2) 目 標 • 材料とかかわる中で、材料の特徴や感触から発想を広げ、思いついたものを描いたり、つくったりすることができる。
• 自分なりに考えた画面づくりを楽しみながら、表現することができる。

(3) 指導にあたって

本題材における基礎・基本について

本題材は、いつも使っている画用紙ではなく、自分で探したり、選んだりした材料を組み合わせて画用紙づくりを楽しむ学習である。前題材では、与えられた画用紙に「季節を形や色に置き換えて表す」抽象的表現に向かう活動に取り組んだ。しかし、本題材は、共通したテーマをもとに自分の表したいことを描いたり、付け加えたりといった表現をするのではない。「新しい画用紙」という言葉から発想を広げて自分の表したい感じになるように計画的に材料を集め、選び、手や全身の感覚を働かせて、思いを形や色につくり上げる活動となる。表したい感じに向かって、材料の特徴を感じ、切る、折る、曲げる、編む、組み合わせる、接合する、接着する、彩色する、削る、磨くなど材料を生かし、様々な工程を経て、自分の思いにあった表現を追求していく。従って、「自分の表したい感じ」にするために、これまでの経験を思い起こし製作に取り組むだけでなく、常に新しい見方・考え方を求めていくであろう。また、材料とのかかわりもより深いものになり、より高まりのある造形活動に取り組んでいくことになると考える。

本題材では、「身のまわりの材料の造形的なおもしろさに積極的にかかわること」「それらを生かして自分だけの画用紙をつくりあげること」「つくることからさらに想像を広げ、活動そのもののおもしろさを感じること」の3点を大切にしていきたい。本題材における基礎・基本は、次の2点となる。①外向的な「考え、つくる」面に関しては、材料とかかわり、特徴や感触から学習計画（総時数6時間）

主な活動と内容	「個」の確立した姿に迫るために	自己評価のポイント
1. 作例を見て学習を把握する ○持ってきた材料について話し合う ・綿や毛糸を持ってきた 接着剤でつけたり 編んだりできるよ ・ネットを持ってきた 包んだり はり付けたりできそうだ ○作例を見て感じたことを話し合う ・布を使っているな チョークの削りかすを使っている ・わたしたちもやってみたいよ！ 世界でたった一つの“新しい画用紙”をつくろう	①②③	抽象表現に関心をもち 自分なりの表現の見通し をもっている (自己達成評価)
		互いに持ってきた材料の よさを認め合い よさを 取り入れようとしている (相互評価)
2. 製作する ○土台となる部分をつくる 基礎となる材料を選び形づくる ・何を土台にしたらいいかな ・ぐねぐねの形にするぞ 段ボール 板 発泡スチロール スチロールトレイ 布 液体粘土 紙粘土… ○様々な材料から思いを広げる ・もっとオリジナルにしていきたいな ・材料を交換しよう！ 砂 おはじき ビー玉 ビーズ ひも なわ リボン 毛糸 紙 ネット 木工用接着剤 くぎ 針金 モール 繊 プラスチック容器 木ぎれ …… ・○○さんの選んだ材料がいい 取り入れよう ・色をつけると感じが違う ・しっかりと止める方法が知りたいな 教えてくれませんか	①②③	発想から材料を選んだり 材料から発想を広げてい る (自己達成評価)
		互いの表現のよさを認め 合い 自分の表現に生か そうとしている (相互評価)
3. 互いの作品を鑑賞し よさや美しさを認め合う	③④	自分の表現や取り組みの よさを見つけている (自己客観評価)
		友だちの表現や取り組み のよさ見つけている (相互評価)

発想を広げて、自分の表したい感じになるように形づくること。②内的な「感じる」面に関しては、様々な表現と出会い、表したい感じを広げられること。そして、自分の表したい感じに向けて画面づくりを楽しむことができるのことである。

本題材を通し、様々な表現や材料とかかわることで身のまわりにある様々な造形に造形的価値を見出し、新たな思いや感じを広げていく芽が育っていくだろう。そして、自分の思いを表すために自ら探求し、獲得していくといった創造的な姿が現れていくと考えている。

「個」の確立した姿に迫るために

① 一人一人の材料へのはたらきかけを促す

抽象的表現による作例を見て直感的に感じたことを話し合う中で、表現のおもしろさや多様性が実感できるようにしたい。また、材料についても話し合い、持ってきた材料の無限の可能性について考えを広げられるようにし、それぞれの思いを自分らしい表現で表していく意欲と活動自体のおもしろさへの期待をふくらませていきたいと考えている。また、表現の過程において表現と材料についてふり返る時間を設け、材料集めや材料選びの興味が高まっていくようになたい。

② 一人一人の材料の使い方やつくり方を大切にする

集めてきた材料の使い方やつくり方をそれぞれの“自分らしさ”として大切にできるよう共感し、さらに“自分らしさ”がふくらんでいくよう材料の使い方やつくり方の提案をしていきたい。“自分らしさ”を追求していく中で生まれた発見や悩みなどを全体の場に広げることで、互いの“自分らしさ”を認め合い、尊重していけるようにしていく。また、材料がないために思いついたことが不可能にならないよう、子ども間の材料提供のあり方（助け合いやマナーの尊重）や、図工室の材料環境を整えておく。

③ 材料の使い方やつくり方の共有化を図り 自分なりの表現の広がりを促す

自分の表現を客観的にふり返る場を設け、問題点から新たな課題を見つけ、より“自分らしい表現”に進展できるよう図っていく。また、相互鑑賞の場を設け、様々な表現や友だちとのかかわりから、よさや美しさの見方・考え方を広げられるようにする。その後の自分の表現の変化と表現や友だちとのかかわりとを関係づけられるようにしていきたい。これらの過程を大切にすることにより多くの表現と出会う大切さを見出していくのではないかと考えている。

④ 自分らしい表現のよさや自身の変容の自覚を促す

自分の取り組みや考え、表現の変化がふり返られるように、表現過程の節々でワークシートに書き込み、足跡が残るようにしていく。最後に書き込みをもとに自分の工夫や努力した点、これからについてカードにまとめていく。このことで、今の自分のよさや前とは違った自分の存在を意識し、今後も“自分らしさ”を大切にし、変容し続けていこうとする意欲を高めていきたいと考えている。

(4) 本題材における授業の実際と考察

子どもたちが積極的に材料とかかわる中で、その特徴や感触から発想を広げ、楽しみながら自分なりの画面づくりに取り組むことができるように4つの場を位置づけ、学習を進めることにした。4つの場は、前述したように

- ・既存の価値観をもとに造形に働きかけ、何をすべきか見つける場
- ・自分の価値観と様々な価値観を関連づけて、自分なりの価値観を広げる場
- ・自分の表したいことに合わせて発想し、自分らしい表現をする（課題解決する）場
- ・自らをふり返り、自分の価値観の広がりや創造性の高まりを認識する場

である。できる限り毎時間これらの場が位置づくように配慮し、授業を進めてきた。

子どもは学びを深めることができたのか、実際の学習の流れと場の設定、自己評価のポイントをもとに考察し、以下に述べていく。「4つの場」と前ページの学習計画に沿った「自己評価のポイント」を観点に子どもの学びと教師の指導・支援について、毎時間の一人一人の思いや表現の過程を残した学習カード、教師が残した一人一人の子どもの学習の内容や様相をもとに考察を進めていく。また、これまでの取り組みで現れてきたポートフォリオ的な評価についての成果、および問題点、自己評価に対する子どもの意識についても述べていくことにしたい。

① 学習把握と材料へのかかわりを広げる活動における考察

～単元の実際～

1 作例を見て学習を把握する

〈どんな宝物を持ってきた?〉

◇自分の持ってきた宝物を見直す

・たくさん持ってきたよ

・○○さんは

おもしろいものを持ってきたな

・△△さんは

うちわを持ってきたみたいだよ

（宝物は

どんな使い方ができるかな?）

◇いろいろな材料の

使い方について話し合う

→どんな宝物? →どんな使い方?

・不織布 →切る 貼る 丸める

・毛糸 →差し込む 結ぶ

・折り紙 →切る 貼る 丸める

・マカロニ →着色 貼る

・貝殻 →貼る

・ラップ →光を利用して

・モール →差し込む

・ネット →差し込む 貼る

・BB弾 →貼る まぶす

・発泡スチロール →切る まぶす

〈新しい画用紙づくりをしよう!〉

◇作例を見て感じたことを話し合う



・おもしろそうだな!

・何か削って色が付いているぞ
チョークだ!

・布も固まっている

液体粘土ってものを使うんだ

・おもしろそうだ やってみたい!

・いろいろなものが材料になるんだ

・わたしは海みたいにしたいな

・わたしは夢の世界にしていきたい

世界でたった一つの

“新しい画用紙”をつくろう

◇「？」がでてきたら

どうしていくか話し合う

・先生に聞けばいい!

・友だちに聞けばいいと思う!

・まわりの友だちに聞いて、友だち

全体に聞いて それでも「？」

だったら先生に聞いていこう

子どもたちは、学習の準備として「宝箱（廃物等、製作に使えそうな身辺材を入れた箱や袋）」を毎時間持ってきている。前題材「季節を感じて」でも季節を表すために絵の具による着彩と宝物の組み合わせを経験してきた。身のまわりのものを用いて自分の思いを表現する楽しさやどんなものでも表現に使っていけるという思いを少しはあるが持ち始めていると感じていた。

自分の価値観と様々な価値観を関連づけて、

自分なりの価値観を広げる場

互いに持ってきた材料のよさを認め合い

よさを取り入れようとしている（相互評価）

本題材は、いろいろな宝物の特徴や感触をたくさん味わうことで豊かな表現につながっていく。そこで、互いの宝物を見合い、その使い方について話し合うことで自分の宝箱が充実し、表現に生かされていくと考えた。まず初めに持ってきた宝物は何か、それはどう使うことができるかを視点に自分の宝物を見直してみた。そのときの子どもたちの持ってきた宝物とその種類の数と人数は、表1、2の通りである。

宝物を持ってくることができなかった2人（表1中2、37）は、前題材において全体としては1～3種類の人工物を用いて表現する子が多い中（21人／38人）絵の具による着彩のみで作品を仕上げ、友だちの作品からよさやおもしろさを見つけることができずにいた子たちである。また、14種類持ってきた子は前題材では5種類（自然物5種類）、17種類持ってきた子は、4種類（自然物2種類、人工物2種類）を付け加え表現した子である。前題材で宝物を付け加えて表す楽しさやよさを感じることができたか（自分の表現だけでなく友だちの表現からも）によって身近な材料への関心が高まっていくことが表れていると言える。

授業の中での自分の宝物を見直す場面では、互いの宝物に関心を持って見合い、座席の離れた子の中身も伝え聞き、実際に見に行ったり、自分の宝物の説明をしたりと次第に宝物への関心が高まっていく様子が見られた。

その後、互いの宝物を紹介し合い、その使い方について話し合うために、材料とその使い方について全体で話し合う場面を設けた。それぞれが持っている宝物や使い方を全体の場で広げることによって、材料に対する価値観を広げたいと考えたからである。それぞれの宝物を紹介し合い、その使い方を話していく中で、「あみに差し込んで」「紙を丸めて」「ラップの光る性質を使って」など自分では考えつかなかつた材料やその使い方がある程度広がっていったようである。しかし、学習カードの『宝箱の中身＆使い方』で「そつか!」「おーっ!」と感じた友だちの考え方を書きましょう』（表3）の記述を見る限り、材料の話し合

いだけでそのよさを感じ取ったり、イメージをさらに膨らませていったりすることは難しかった感がある。製作後に書かれた記述が多かったり、記述できなかったり、自身の製作に関するこ

(表1) 持ってきた宝物（材料のみ：学習カードより）（番号は紀要上の番号 以下同じ）

No.	1・2時に持ってきたもの	3・4時に新たに持てきたもの
1	ビーズ BB弾 折紙	発泡スチロール ネット ひも BB弾
2	ビーズ ネット 貝殻 ガーゼ ボタン おはじき リボン	スーパー・ボール 欠席
3		
4	綿 ビー玉 カエル型消しゴム ボタン ビーズ 布 かわいいつまようじ	毛糸 ガーゼ 発泡スチロール リボン
5	チチマット	毛糸 BB弾
6	ビーズ	筒 折紙（光る） 布
7	ビー玉 セロハン 金紙 ネット モール ビーズ 針金	チチシート
8	毛糸 ビーズ フェルト	
9	ビーズ ひも BB弾	
10	ビーズ 綿 薄い紙 毛糸	
11	ビーズ モール おはじき 毛糸 発泡スチロール 針金 折紙	
12	チチマット ビーズ 画用紙の切れ端 布 ひも 輪ゴム 天蚕糸 フイヤー シールの貼れなくなったもの リボン クリップ フェルトの切れ端	毛糸 リボン ラップ
13	スポンジ 折紙 ビー玉 BB弾 布 おはじき 紙袋 布 プラスチックの容器 ビーズ おはじき プラスチックの輪	新聞
14	和紙 モール セロハン 折紙 ミニ玉 ビー玉 段ボール カラフル段ボール 毛糸 プラスチックものさし	お手玉の中身
15	折紙 おはじき ビー玉 ビーズ ガラス モール	
16	段ボール ビー玉 糸 折紙 毛糸 発泡スチロール 紙 チチマット 色つきネット ビーズ	ひまわりがらの布 リボン 毛糸
17	紙テープ 紙	タマネギネット×3
18	ビーズ セロハン おはじき 布 綿 モール ひも 針金 ガラスの石 リボン ビー玉	和紙 マカロニ 折紙
19	和紙 折紙 ネット ガーゼ 透明容器 段ボール ひも 布 ビーズ	ビーズ BB弾
20	包帯 トレイ ビーズ 布 ビー玉 おはじき ボタン 綿 ひも つる 紙 透明トレー チチマット	マカロニ
21	布 ビーズ スパンコール 光るひも 毛糸 段ボール	発泡スチロール モール
22	ビーズ 発泡スチロール 透明容器 段ボール 毛糸 紙 ひも おはじき セロハン モール リボン	布 ネット
23	発泡スチロール マッチ棒 缶のふた ゼリーのふた プローチ リボン	ゼリーの容器
24	欠席	ビーズ 布 ひも
25	木 セロハン ビーズ 折紙 ストロー 型紙	ビーズよりでかい玉
26	ビーズ 発泡スチロール 透明容器 毛糸 フェルト 布 おはじき ビー玉 日光玉	綿 ネット
27	クリップ ビーズ スパンコール ネット 発泡スチロール ゼリーの容器 ガーゼ 布	折紙
28	ビーズ ビニルひも 毛糸 アルミホイル ラップ 段ボール	ネット セロハン
29	段ボール ガムテープ	BB弾 ネット 卵パック チチマット トレイ リボン
30	段ボール トレイ チチマット タオル	ファイル 貝殻 あみ
31	チチマット 紙テープ 紙テープ 布 毛糸（青） 段ボール 折紙 発泡スチロール	
32	ビーズ チチマット スパンコール 段ボール 毛糸 千代紙	
33	ネット リボン ひも ストロー 針金 ガーゼ ビー玉 おはじき 段ボール 発泡スチロール 透明容器 ビーズ チチマット	モール
34	発泡スチロール 段ボール	リボン 折紙
35	発泡スチロール 段ボール ネット 和紙	毛糸
36	ビーズ 綿 布 フェルト 毛糸 傘の切れ端 スポンジ 厚紙 綿棒 卵パック マカロニ 不織布 ガーゼ うちわ キッチングペーパー ティッシュ アルミホイル	
37		
38	ビーズ 天蚕糸 スパンコール 和紙 ビニル セロハン 縞きらきら光るフィルム	綿 ビーズ おはじき スチロールトレイ

について書かれたりしたことからもそのことが見て取れる。次時に新たに持ってきた宝物の中にもこれまで自分自身が持っていた材料に対する価値観が友だちとのかかわりの中で広がっていく様子がある程度見て取れる（表1）が、実際にその材料を使ったり、使う様子を見たりして初めて実感として材料の多様性を感じることができることの表れと言えよう。そこで次時では、材料と使い方、それらが生み出す感じの3つを視点に全員で互いの作品を鑑賞し合うことで、さらにイメージを広げていくことにした。

（表2）持ってきた宝物の種類の数と人数

宝物の種類	0	1～5	6・7	8・9	10・11	12・13	14～
1・2時の 人数（人）	2	13	10	6	3	3	2
3・4時の 人数（人）	0	12	8	7	2	3	6

（表3）宝箱の中身＆使い方で「そっか！」「おーっ！」と感じた友だちの考えを書きましょう

1 縫に液体粘土をぬってふわふわに	2 新聞をはり付けていた人がいてそんな使い方もできるんだと思った
3 まぶすはそっか！と思った	4 毛糸を段ボールに？みたいにつけていた
5 BB弾やひもを交差していた	6 毛糸を巻き付けた
7 小物入れに分けて入れてある	8 毛糸で筋を入れてビーズを通して毛糸で動物とかつくって夢の遊園地に
9 うちわに液体粘土をふって	10 段ボールにちりばめる
11 ネットで囲む ラップ光る	12 貝殻やマカロニはなかなか思いつかない使い方でなるほどと思うものがたくさん
13 毛糸の出す出さない	14 カラー油のリボン ラップ
15 貝がらで海に対する考え方	16 毛糸と段ボールで編むようになってのりとチョークを混ぜて
17	18 うちわ
19 段ボールにいろいろ入れてきてその段ボールを使う	20 うちわ
21 発泡スチロールを細かく切ってちりばめる	22 さしこむ 丸めて差し込むこと
23 リボンを使ってベルトコンベアをつくれる	24 欠席
25	26 切ったり削ったりしてまぶしたりする
27	28
29 プチプチマット	30 紙粘土の上にチョークの粉をつけるときれいになるから実際にやってみた
31 うちわ	32 大きいプチプチマット リボン 折紙
33 たくさんの種類があったこと	34 傘の切れ端
35 ネットを使ってビーズなどを閉じこめていた	36 チョークの粉をヤスリで削ってきれい
37 使い分けていた	38 宝箱を種類ごとに分けていたこと

（空欄は記述なし、網掛けは製作後に書かれたもの、濃い網掛けは自分のことについて書かれたもの）

既存の価値観をもとに造形に働きかけ、何をすべきか見つける場

抽象表現に関心をもち 自分なりの表現の見通しをもっている（自己達成評価）

ここで初めて、題材名「新しい画用紙で」を子どもに提案し、これから学習について様々な材料を使い、自分の思いを爆発させようということを話し合った。子どもたちは「新しい画用紙で」という題材名だけではイメージがなかなかわいてこない様子だったので、教師がつくった作例を提示し、抽象表現のおもしろさを話し合うことにした。作例を見て、まず初めに「おもしろそうだ」という思いを持ったようである。チョークを削ってまぶしていったり、布を液体粘土で固めて形づくったりと、新しい材料やこれまでの使い方とは違った使い方に関心を持ち、これからの製作への意欲を高めていった。話し合いの中で、「海みたいに表したい」「夢の世界にしていきたい」という思いを持つ子どももいた。作例を見て感じたことを全体で話し合うことで、製作への見通しを持つことができたと考えている。

自分の価値観と様々な価値観を関連づけて、自分なりの価値観を広げる場

また、造形への働きかけがより積極的に行われていけば、悩みや疑問が生まれ、それらを解決していく必要が出てくるはずである。そこで、悩みや疑問が出てきたときにはどうしていくかを全員で考え、確認することにした。「分からぬこと、悩みが出てきたらどうするか」という問い合わせ子どもたちは「先生に聞く」とほとんどの子が答えている。話し合いを進めていく中で「まず、まわりの友だちに聞く」それでも解決しなければ「友だち全員に聞く（先生も含めて）」という確認をすることができた。個の悩みや疑問が全体の場で共有化されることによって「○○さんは、□□したいと思っているんだ」「わたしだったらこうしていくな」など互いを認め合うだけでなく、表現の広がりも生み出すと考えている。そこで、意識的に自分の表現をふり返り、課題を持つ場を設け、それぞれが課題を設定する時点で出た悩みや疑問を発言できるようにし、いくつかの解決方法を探った後に製作に入していくような時間を設定することにした。また、みんなでつくるという雰囲気を大事にし、製作途中においても全体に対する発言ができるよう配慮し、それがみんなの表現を支える意識を育てていきたいと考えた。どうしても個としての活動が中心となる表現過程において、互いの思いを知り、どうしていけばもっとよくなるかを全体で話し合っていくことが表現や共に学ぶという意識を広げることにつながっていくと考えたからである。

② 様々な材料や用具を使い、自分なりの表現をする活動での考察

2 製作するー1

〈世界でたった一つの
“新しい画用紙”づくりをしよう〉
△土台となる部分をつくる



- ・段ボールを使って
- ・持ってきたうちわを使って
- ・四角い形がいいな
- ・おもしろい形にするよ

△様々な材料から思いを広げる
・液体粘土をぬってみよう
・チョークの粉をまぶしてみるよ
・ネットを使ってみよう



- ・材料銀行を見てみるよ
- ・友だちと交換しよう
- ・もっと宝物がほしいな！

既存の価値観をもとに造形に働きかけ、
何をすべきか見つける場

自分の価値観と様々な価値観を関連づけて、
自分なりの価値観を広げる場

自分の表したいことに合わせて発想し、
構想を練り、自分らしい表現をする
(課題解決する) 場

発想から材料を選んだり
材料から発想を広げている (自己達成評価)

いろいろな材料を思いに応じて
使うことができている (自己達成評価)

作例を見て、みんなで学習を進めていくことを確認した後、製作に入った。子どもは思い思いに土台づくりから様々な材料を組み合わせて、自分だけの新しい画用紙づくりに取り組んでいた。自分の思いを表現するためには持ってきた材料だけでは足りないと感じた子どもの中には、友だちと材料を交換したり、ゴミ箱や図工室内を見て回ったりと材料集めに一生懸命な姿も見られた。

図工室内に「材料銀行」を設け、必要な材料を物々交換で持つてもよいことにした。物々交換にしたのは、自分で材料を集めることも“考え”“つくる”ために必要であると考えたからである。

子どもたちは、思い思いに材料の特徴をつかみ、その感触や色の感じから新しい使い方を見つけ、製作に取り組んでいた。どの子も手を止めることなく製作に没頭していた姿が見られた。それは、学習カードに記述した「オリジナルと思う材料&工夫、新発見を書きましょう」の中で、自分らしい表現を求めて取り組ん

- ・ゴミ箱の中に何かないかな？



◇今日のふり返りをする

- ・今日のオリジナルはひもでパーツをつないだところ
- ・ボンドを糸のようにしたよ
- ・砂漠の感じを
鉛筆の削りかすで表せたよ
- ・次は新しい材料を持ってこよう

2 製作する-2

◇途中作品を相互鑑賞する

- ・友だちの作品も見てみたいよ



〈材料と使い方 感じについて

友だちの作品を見て話し合おう〉

- ・うちわを使っているところがいい
- ・えんぴつの削りかすがある

何でも材料になるんだな

- ・段ボールを丸く切っていていい

◇話し合いをもとに今日の課題を持つ

- ・もっと立体的にしていきたいな
- ・ビーズがくっつかない

どうしたらいいですか？

〈めあてに向かって〉

◇様々な材料から思いを広げる

- ・もっとカラフルにしていきたいな
- ・いろいろな材料を使ってみよう
- ・穴をあけて毛糸を通すやり方を

取り入れよう



だ様子が表れている（表4）。

初めは、製作途中で出てきた悩みや疑問を全員に問い合わせる姿は見られず、まわりの友だちに聞いたり、直接教師に聞いてきたりする児童が多く、同じ悩みや疑問を共有し共に学んでいく、表現の広がりのヒントにするなどの姿は見られなかった。そこで次時では、製作に入る前に相互鑑賞の場を設けることにした。

互いの表現のよさを認め合い

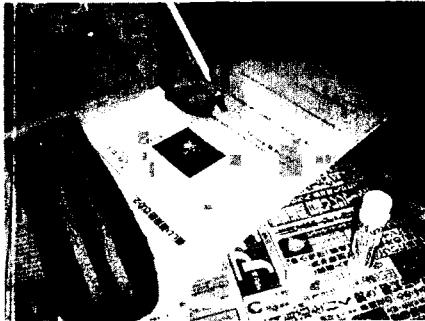
自分の表現に生かそうとしている（相互評価）

導入場面で相互鑑賞の場を設け、様々な材料から感じることができるよさやおもしろさについて話し合った。様々な材料から発想を広げていけるようにと考え、話し合う観点を“材料”“使い方”そこから表される“感じ”の3点に設定した。子どもたちは、互いの作品を興味深く見てはいたが、「うちわを使っているところがすごい」「土台の上にえんぴつの削りかす」「段ボールを丸く切っているところがすごい」など「材料」と「使い方」に興味があり、そこから生まれてくる「感じ」へつながらなかった。「○○を△△なふうに使っているから、□□のような感じが出ている」「▽▽な感じを出すために◇◇を○○なふうに使っている」など「感じ」について話し合うためには、目的を持って「何を」「どんなふうに」つくっていくかがはっきりとした題材である必要があったのではないかだろうか。また、それぞれが感じたことを全体の場に広めていくことに抵抗があったこと、鑑賞するという場においての作品の配置が混み合っていて全体を見渡すことができなかつたこと、「新しい画用紙で」という題材名から生まれたイメージが個々にばらつきあったことが3つの観点での話し合いが膨らまなかつた原因と考えられる。

相互観賞後に今日のめあて（課題）を書き、悩みや疑問についてみんなで話し合った後、製作に入った。課題を書く場面では、相互鑑賞したことをもとに目の前の自分の作品を見ながら各自課題を設定していく（表5）。学習カードに書かれためあてを見てみると「海らしく」など、何をつくっていくか自分で思いを持っている子どもはこの段階で5人（2、5、7、15、22の子ども）であり、ほとんどの子が、材料を使うことやつくること自体を重視し材料の多様性を生かしていこうとしていることが分かる。題材が抽象表現であったことで、めあてが抽象的なものになり、完成を想定したものにはならなかつたが、材料の多様性を感じ、自分の思いに合わせて表現していく楽しさお味わっていこうとする意識が見て取れる。実際、子どもたちは、材料から発想を広げつくったり、つくれていく中から新しい発想が生まれ、つくり進めていくことを楽しんでいた。

授業の終わりの全体のふり返りの中で、「新しい画用紙でいったい何を書いていくのか」という一人の子

- ◇今日のふり返りをする
 ・もっと材料を使ってみて
 自分らしさを見つけたい
 ・イメージを変えるのにがんばった



- ・「新しい画用紙」で
 いったい何をかいていくのかな?
 ・自分の思いを
 全部表した画用紙だよ

の問い合わせから自分たちは何をつくっているのかという話題になった。導入段階で画用紙づくり自体が作品づくりというイメージが伝わったと感じていたのだが、子どもたちの中には、「画用紙=作品づくりの基礎となる材料」というイメージがぬぐい去れないでいたようである。話し合いを進めていく中で「自分の思いを爆発させて新しくてこの世に2つとない画用紙をつくっていく」という結論に達した。問い合わせた子どもはまだよく分からない様子であったが、授業後、友だちと話し合って納得していた。

製作の最終段階でも、授業の初めに相互鑑賞の場を設け、互いの作品を鑑賞した。前回の反省をふまえ、教室前面に広く場所を取って作品を配置し、子どもたちが作品を全部見渡せるようにした。それぞれの作品の雰囲気や完成度が鑑賞の中心となっていた。このときの子どもたちのめあて（表5）からも全体の雰囲気を大切にしたり、材料の多様性を生かしたりして完成させていくこうとする思いが表れている。

(表4) 「オリジナルと思う材料&工夫、新発見」

	1・2時	3・4時	1・2時	3・4時
1	ひもでパーツとパーツをつなぐ	発泡スチロールと絵の具と液体粘土を混ぜて	2 貝殻をペンダントのように	ネットを2種類、貝殻を使った
3	土台をおもしろい形に	スーパー・ボールとおはじきを使った	4 綿、新聞紙をくちゃくちゃにしてはり付けた	欠席
5	鉛筆の削りかすで砂漠を表現	紙粘土で恐竜をつくった背骨も一つ一つ	6 ラップを使った	液体粘土で雲を立体的に
7	鉛筆の削りかすを砂漠にイメージ	針金で銀に光る木をつけたナイロンひもをさいて葉に	8 ランチョンマットみたいにしてビーズを通して	夜の夢の中にいるように青を中心にして星をつけた
9	マカロニや貝殻を使った	紙粘土でピラミッドを	10 ○の段ボールの上に王冠型の段ボールをつけた	毛糸を池のように○にした液体粘土でフフフ感を
11	貝殻・ビー玉を使ったガーゼに液体粘土を	チチチシートを使った	12 発泡スチロールや発泡スチロールの小さい玉	チョーク、ビーズなどローラーで着色して明るく
13	液体粘土をびちよびちよに垂らした	紙粘土を使つたこと道をつくったこと	14 ボンドを糸のようにした	チョークの粉と液体粘土を混ぜた
15	段ボールの形を野球のボールのような形に	だいたんに粘土・あみ・液体粘土などを使つた	16 オレンジのマット・チチチマットを使った	毛糸を塔のように巻き上げた
17	折紙を小さく刻む	ネットと液体粘土を使った	18 純や布を使った	布・ひも・チョークを使った
19	ガーゼ・和紙を使った	紙粘土を使った	20 包帯を使った	綿や紙粘土を使った
21	段ボールに2つ穴をあけひもを通してベルトコンベアに	発泡スチロールをヤスリで削って細かくしてつかった	22 モールを花びらのように	ビーズを紙粘土に埋めこんだ
23	マッチ棒とビールなどの蓋を使った	チョークの粉をゼリーのカップにつけた	24 欠席	紙粘土で星をつくった
25	段ボールに穴をかけてひもを通した	紙粘土・スパンコール、折紙をはり目立せた	26 泡に見立ててフェルトを貼つた	チョークでぼやかせた紙粘土に色を混ぜた
27	ネットの中にスパンコールを入れた	紙粘土にチョークの粉を混ぜた	28 形にきつたアルミホイル	今までではつたものにネットをかぶせた
29	チョークの粉をふりかけた	チチチマットに色をぬったらきれいになつた	30 新聞紙を手でちぎって貼つた	ローラーで青色をつけたとてもきれいになつた
31	チチチマットをはり付けた	紙粘土に色をぬってまわりにつけた	32 毛糸をくるくるにしてつけた	スパンコールでトールペイントのように
33	ストローを使った段ボールどうしをつけた	モールを使ったローラーで色をつけた	34 チョークをする	紙粘土を魚の形にして
35	発泡スチロールを絨毯みたいにした	ネットを毛糸ではりつけた	36 うちわを土台に	いろいろなものをとりつけた
37	段ボール全体にチョークの粉をまぶした	紙粘土とおはじきを使った	38 今まで使つた図工の材料のあまり使つた	紙粘土の上にチョークの粉をふって手で押された

(表5) 各自が設定したためあて(課題)

No.	3・4時	5・6時	No.	3・4時	5・6時
1	きれいにすみずみまで	色をたくさんぬる	2	海らしくする	カラフルに
3	もっと立体的に	仕上げを! 見た目をかっこよく	4	欠席	色をぬつたり・フワフワに
5	化石やオアシス、 川をつくる	オアシスづくり	6	土台を重ねていく	爆発させる
7	主に液体粘土でオアシスの 雰囲気をつくろう	オアシスの感じを出そう	8	毛糸にビーズをつけていく	昼の空の感じを持たせよう
9	粘土・チョークを使って 何かをつくる	完成させよう	10	もっときれいに点々を	かわいい羽根をつけよう
11	紙粘土でカラフルにしよう	色を工夫して完成させよう	12	色のあるものを 使って明るく	まわりのところを 埋めていく
13	自分らしいものにする	自分らしいものにする	14	立体的に彩りよく	今度こそ 立体的に!
15	より自分らしく ボールの形にする	両側の白い部分を 変えていく	16	明るくかわいく	不思議なかわいい感じを
17	前と違うイメージで	イメージチェンジを	18	きれいに飾りつけを	段ボールが見えないように
19	もう少しにぎやかに	もっと明るく	20	飾りつけを	欠席
21	発泡スチロールとモールで 柔らかい感じを	明るくして爆発させる	22	花というイメージを出す	もっともっと花らしく
23	材料を土台にはりつける	段ボールをかくし 飾りで明るく	24	土台づくり(前回欠席)	段ボールに色をつける
25	いろいろな形の 段ボールを組み合わせる	紙粘土をうまく使う	26	自分に思いを作品に	自分の気持ちを表現しよう
27	楽しく明るくする	バックに色をつける	28	身近なものを使って 楽しく明るく	色をつけていって もっと芸術的に
29	新しく持ってきたものを うまく使う	段ボールを埋め尽くす	30	青色でおもしろい感じに	にぎやかに
31	段ボールを埋める	全部埋めよう	32	いろいろなものを使って にぎやかに	楽しい感じにしよう
33	土台全体をもっときれいに	箱の中身をたくさん使う	34	中心をカラフルに華やかに	もやもや あやしく
35	もっと色を多く	宝物をいっぱい使う	36	カラフルに	春夏秋冬
37	持ってきたものを できるだけくっつける	段ボールの色をぬりつぶす	38	楽しそうな明るい画用紙に	温かい感じをイメージして

2 製作する-3

◇途中作品を鑑賞する

<材料と使い方、感じについて

友だちの作品を見て話し合おう)

- ・土台の段ボールの色が

見えないくらいになっているぞ

- ・ネットをうまく使っているな

- ・海って感じが出ているね

- ・やりたいことのヒントがあったぞ

◇話し合いをもとに今日の課題を持つ

- ・バックに色をつけたい

- ・もっともっと花らしく

- ・温かい感じをイメージして

<めあてに向かって>

◇様々な材料から思いを広げる

- ・絵の具をたらしてみよう

- ・○○さんのやり方を取り入れよう

製作も最終段階に入り、子どもたちの活動もだんだんと大胆になり、色や材料を自由に組み合わせたり、絵の具を画面全体にたらしたりと友だちの作品を見て新しく思いついた方法を試しながら表していた。時間ぎりぎりまで材料の多様性を楽しみ、表現されたものを味わっている様子が印象的であった。

6限の活動の中で、子どもたちがどんな材料を選び、どうかかわり、その多様性を生かして製作していったかを集めた宝物(表1)と実際に使用した材料(表6)、製作の過程を記録した写真、子どもの日記から見ていくことにしたい。

表1、6からは集めた宝物以外に様々な材料を使い、表現していった様子が見て取れる。これは毎時間のふり返りの中での発言にもあったように「鉛筆の削りかすをうまく使っていた」「毛糸を段ボールに通してあっておもしろいと思った」「ネットにいろいろな材料を差し込んでいた」など相互鑑賞や友だちとのか



- あの友だちの作品はどうかな
おもしろい宝物の使い方だね



- もっといろいろと
宝物をつけてみよう
 - 最後の仕上げ、しっかりとやろう
- ◇単元のふり返りをする
- 〈がんばったことは何かな〉
- いろいろな材料をつかったよ
 - 色の組み合わせを考えたよ
 - 毛糸であみあみにしたこと
- 〈自分が変わったところ、
すごいなと思ったところは?〉
- できたものを見てつけ加えること
ができるようになったよ
 - 今まで爆発しなかったけれど
今日は大爆発!
 - 色づかいが大胆になったぞ!

かわりのなかで、今まで材料として見ていなかったものを材料としたり、これまで気づかなかった使い方を見て、表現のよさを感じ、自分の表現として生かしていった表れであろう。集めた宝物以外のものは、材料銀行で物々交換したり、友だちとのかかわりの中で交換したりしたものである。自分の思いを表現するために、そして、材料の多様性を楽しむために自ら積極的に行動し、思いを遂げようとした表れであると考えられる。表中17番と37番の子の完成に至るまでの集めた材料と実際に使った材料の種類の変化を示す。

	17番	37番
1・2時	紙テープ 紙	なし
3・4時	紙テープ 紙 タマネギネット	綿 ビーズ あはじき
完成時	紙テープ タマネギネット 段ボール 新聞紙 紙粘土、 チョーク 絵の具 鉛筆 ナイロンテープ 液体粘土	綿 あはじき 段ボール 折紙 液体粘土 チョーク 紙粘土 スパンコール きらきら光るフィルム

17番の子は、初めは2種類、次時には3種類、最終的には10種類を用いて製作している。また、37番の子は初めは0種類であったが最終的には9種類の宝物を用いて製作している。逆に12番の子は15種類の宝物を集めましたが、実際に製作に用いたのは10種類、36番の子は17種類の中から8種類を用いている。このように集めた宝物の数より少ない材料を用いた子は6人いた。これは、様々な材料の特徴や感触からイメージを広げながら取捨選択し、最終的には10種類前後の材料に深くかかわったことの表れと言える。最終的に使った材料の数を表2と合わせて示す。

宝物の種類	0	1~5	6・7	8・9	10・11	12・13	14~
1・2時の人数	2	13	10	6	3	3	2
3・4時の人数	0	12	8	7	2	3	6
完成時の人数	0	3	2	12	12	8	1

活動の終了時のふり返りの際、その時間のスタート時と学習終わりの作品の変容を感じ取ることができるように毎時間終了時に途中作品の写真を記録として残してきた。日記にもあるように「最初の時の写真と比べてみたら、(中略)全然変わっていたのがビックリでした」「前よりすごくカラフルな感じになりました」など、この取り組みによって、子どもたちは学習後の作品の変容に驚き、そして製作を通して変容していくことを楽しみながら取り組んでいたように思われる。また、変容が視覚化され、その変容を楽しめたことが、意欲を持続させていく大きな支えとなっていたようである。これらの連続写真からも、より多くの宝物を使うことよりも10種類前後の材料をいか組み合わせ、使っていくかに子どもの思いが傾けられていることが分かる。

自分の価値観をもとに造形に働きかけるだけでなく、様々な価値観に出会い、それらを関連づけていく場を設定することで、発想が広がり、他の表現のよさを見つけ、自分の表現に生かしていくこうとする姿が現れたと言えるのではないだろうか。

今後も様々な造形活動を通して、自己の変容を楽しみ、よりよく変わっていく自分に出会える学習を進めていかなければならないと考えている。

(表7) 完成した作品に見る題名、実際に使った材料

No.	〈題名〉 実際に使った材料	No.	〈題名〉 実際に使った材料
1	〈とってもうまいあ子様ランチ!〉 段ボール 紙粘土 絵の具 液体粘土 ネット チョーク 発泡スチロール ビーズ 竹ひご 毛糸 折紙	2	〈カラフルな海〉 段ボール 毛糸 ネット 紙粘土 液体粘土 銀糸 リボン 貝殻 絵の具 ビーズ スチロールネット チョーク
3	〈海散歩〉 段ボール 紙粘土 絵の具	4	〈海のパレード〉 段ボール 紙粘土 新聞紙 チョーク 編 ビー玉 ボタン カエル型の消しゴム 絵の具 スパンコール
5	〈化石の出現〉 段ボール 液体粘土 紙粘土 チョーク 鉛筆の削りかす	6	〈空の上をとびまわろう!〉 段ボール 液体粘土 ビーズ 絵の具 チョーク 毛糸
7	〈砂ばくのオアシスがくれた宝物〉 段ボール 液体粘土 チョーク ナイロンテープ 針金 ビーズ 編 スパンコール 鉛筆の削りかす	8	〈星とよるの間のそら〉 段ボール 液体粘土 ビーズ プラスチック小物 絵の具
9	〈生き物は生きている〉 段ボール 紙粘土 プチブチマット 液体粘土 チョーク ビーズ リボン 絵の具	10	〈空が空をとぶ〉 段ボール 紙粘土 液体粘土 ビーズ 絵の具 毛糸
11	〈星空の夜〉 段ボール 紙粘土 絵の具 チョーク ガーゼ ビーズ なわ 発泡スチロール プチブチマット	12	〈がんばれ紅組!がんばれうさちゃん!夢の世界!〉 段ボール 絵の具 チョーク 編 ビーズ スチレントレイ 毛糸 輪ゴム カラーボールペン 片段ボール
13	〈道〉 段ボール 紙粘土 絵の具 プラスチックの小物 なわ BB弾 毛糸 ネット ゼリー容器 折紙 スパンコール えんぴつの削りかす 合成ゴム形接着剤	14	〈お誕生日のプレゼント〉 段ボール 液体粘土 チョーク 毛糸 スズ ビーズ プラスチックの容器 片段ボール タマネギネット プラスチックの輪 ボタン 紙粘土 おはじき モール
15	〈スパイダーボール〉 段ボール 液体粘土 毛糸 ネット 絵の具 ゼリー容器 ビーズ ビー玉 合成ゴム形接着剤 チョーク	16	〈ふしげ?のフワフワ世界へようこそ〉 段ボール 毛糸 画用紙 布 液体粘土 ビーズ 編 折紙 絵の具 チョーク きらきら光るフィルム
17	〈バババツ〉 段ボール 新聞紙 紙粘土 チョーク 紙テープ 絵の具 液体粘土 タマネギネット ナイロンテープ 鉛筆	18	〈雲の上の未来〉 段ボール 布 毛糸 絵の具 液体粘土 折紙 ビーズ スパンコール 銀紙 おはじき チョーク 編
19	〈活火山〉 段ボール 液体粘土 ガーゼ 紙粘土 絵の具 合成ゴム形接着剤 チョーク 折紙	20	〈湖の鏡の世界〉 段ボール 包帯 編 液体粘土 チョーク 紙粘土
21	〈火星人との対面〉 段ボール 紙粘土 モール チョーク 編 絵の具 ビー玉 ブルタブ スクリューキャップ ビーズ スチロールトレイ セロハン	22	〈お花畠によるこそ〉 カラー片段ボール フェルト モール 毛糸 ビーズ 液体粘土 発泡スチロール おはじき チョーク ネット 画用紙 ラメペン
23	〈ユニバーサルスタジオイン附属〉 紙粘土 マッチ棒 液体粘土 ペットボトルの蓋 ゼリーの容器 絵の具 ブルタブ プラスチックの小物 チョーク ビーズ スクリューキャップ	24	〈よぞら〉 段ボール 毛糸 絵の具 液体粘土 紙粘土 チョーク ビーズ 編 セロハン
25	〈夢の遊園地〉 段ボール 紙粘土 絵の具 チョーク 液体粘土 ビーズ 画鉄 セロハン 折紙 スパンコール 金紙 ナイロンテープ	26	〈海の中のもう一つの世界へ!〉 段ボール 編 絵の具 チョーク 紙粘土 毛糸 ネット ビーズ
27	〈雲の上から見た島〉 段ボール 絵の具 編 ビーズ セロハン BB弾 スチロールトレイ ネット ゼリー容器 折紙 スパンコール 液体粘土	28	〈芸術の世界!〉 段ボール ネット アルミホイル 編 液体粘土 絵の具 紙粘土 チョーク ラメペン
29	〈太陽の世界〉 段ボール 卵パック 紙粘土 液体粘土 プチブチマット 絵の具 チョーク 新聞紙 折紙 ビーズ 木工用接着剤	30	〈冬の海〉 段ボール 新聞紙 絵の具 液体粘土 チョーク 編 発泡スチロール 卵カップ タオル 毛糸 プチブチマット
31	〈あにぎりの山〉 段ボール 液体粘土 チョーク 紙粘土 絵の具 紙テープ 折紙 編 スチロールトレイ プチブチマット	32	〈そらのくに〉 段ボール 絵の具 スパンコール 毛糸 液体粘土 千代紙 新聞紙 紙粘土 リボン
33	〈明るい星を見つめよう〉 段ボール 紙粘土 絵の具 おはじき プチブチマット リボン ガーゼ 造花 モール ネット ストロー 液体粘土	34	〈深海のお魚のお祭り〉 段ボール 紙粘土 絵の具 リボン つまようじ ガーゼ 液体粘土 折紙 チョーク
35	〈自分のマット〉 段ボール スチロールトレイ 紙粘土 液体粘土 和紙 絵の具 ネット チョーク	36	〈春夏秋冬〉 うちわ 紙粘土 チョーク 液体粘土 木工用接着剤 ビーズ 絵の具 傘の切れ端
37	〈魚が空をおよぐ〉 段ボール 液体粘土 チョーク 折紙 おはじき 紙粘土 きらきら光るフィルム スパンコール 編	38	〈カラフル・マーブルちゃん〉 段ボール 紙粘土 スパンコール 液体粘土 絵の具 毛糸 マカロニ 折紙 チョーク プチブチマット 編

（ ）は題名（作品カードでの記述の転記）



23番



16番



17番



15番

製作の記録 思いを広げて製作を進めている様子が見える

左（1・2時）→中（3・4時）→右（完成）

図工が終わって最初の時の写真と比べてみたら、目ひょうどおり、明るくなつたし、ぜんぜん変わっていたのがとてもビックリでした。これからも工夫などしまくつていよい作品にするぞ！

他の人の作品を見ているとおもしろい材料やその使い方に工夫してあつたりとかしていました。わたしは海みたいにしようかなと思っていたのでうしろに水色をぬりました。そしたら明るくなつたし、すごく海らしくなつたのでよかったです。

一番最初は、「わた」しかつけてなくてすごく寂しかったです。でも、液体ねん土をダンボールの上にたらして、のばしてその上にチョークの粉をかけたり、ビーズをつけたり、ぬのをはつたり、あなをあけておすんだりしました。前よりすごくカラフルな感じになりました。

日記より

変容に驚き、楽しんでいる様子が見える

③ 自らの学びをふり返る活動での考察

自らをふり返り、自分の価値観の広がりや創造性の高まりを認識する場

活動そのものの楽しさを感じている（自己達成評価）

自分の表現やとりくみのよさを見つけている（自己客観評価）

価値観の広がりや創造性の高まりを認識する場として学習の最終段階で自分自身をふり返る場面を設定した。本題材ではこれまで書きつづってきた学習カードや記録写真、作品などを見直し「学習を終えて、自分が変わったなあ、自分ってすごい！」と感じたことを学習をふり返りながら書いている（表7）。

（表7）自分が変わったなあ、自分ってすごい！と感じたことを書きましょう

1 おもしろい材料や道具で他の人が考えないことをやった	2 いろいろな新しいやり方とか（例えば貝がらのつけ方など）そういうことが変わった
3 小さい人間をつくれてきようだと思った	4 とてもいろいろなことをして工夫できたのでこれからも工夫していきたい
5 化石を1つ1つつくった（くっつけたりすることも）	6 好きなふうにできてよかったです アレンジがとってもよかったです 結構変わった！
7 オアシスの宝物をビー玉にして、それを守る木たちって感じを出して自分でもそう感じた	8 なし
9 紙粘土を白だけでなく色をまぜてつくったこと	10 時計をかくなんてすごい??
11 いろいろな材料を使って工夫する力が変わった	12 ダンボールを何も考えないで切って形ができてしまうこと
13 スケールが大きくなって変わった	14 初めに下のみどり色の四角を人形にしてかみで足をつくったこと
15 自分らしさを強く表現できた	16 いろいろやっていても寂しかったので 毛糸をほぐしてつけたらフフフにした感じがすごく出てすごい！
17 色づかいがだいたんになった	18 段ボールの色をかくそうとローラーでぬって少しもあかないようにした
19 今まで爆発していかなかったけど今回は爆発できた	20 いろいろな材料を組み合わせて使ってすごい！
21 他の人とはちがう自分らしさが変わった 応用したりすることを自然にしていたのですごいと思った	22 お花をいっぱい作ってお花畠らしくしたこと
23 いろいろな道具を使って不思議なものをつくって おもしろいと感じた	24 いろいろな道具を使って星をつくったのはすごいなーと思った！
25 ジェットコースターのところの通路を 玉が通るように調整してやっとできた	26 いつの間にか次から次へとアイデアが出てくること
27 ちょっと案が出て考える力がついた	28 どんどん発想することが変わって友だちの作品を参考にすることもできてると思った
29 最初アイデアが思いつかなかっただけど だんだんやっていくたびにアイデアがたくさんうかんだ	30 優しい感じが出せるようになった 1色できれいな感じを出せるようになった
31 山をくっつけたこと	32 アイデアがけっこう出てくるようになった
33 画用紙の色がついていないところに ダイナミックに色をぬったこと	34 これからは友だちの悪口は言わない！と思った
35 粘土をまぜて色とか変えてすごい	36 ものの使い方がうまくなかった
37 ちょっと工夫が分かってきた気がする	38 最初から何も考えないで できたものを見てつけ加えていくことができるようになった

表7を見てみると発想に関する変容を挙げた子どもが多い。これは、本題材の特徴に関係した様相であると思われる。本題材はいろいろな材料から発想を広げて自分の思いを表現していく題材である。技能的な高まりや新しい技能の修得をねらいとした題材ではなかったので、新しく思いつく、他とは違うといった“感じる”“考える”部分での変容がクローズアップされたようである。子どもたちの記述は不十分で、教師が読みとらなければならない部分も多いが、目には見えないものの高まりを感じることができたととらえることができよう。

しかし、本題材でのふり返りにある学習の初めと終わりとの比較（毎時間のふり返りも行っているが）だけでは、学びを深めること、また、深まった学びを認識することは難しいのではないだろうか。子どもの記述を見れば、一人一人一生懸命にとりくみ、それそれが高まり（程度の差はあるが）を感じてはいるが、作品の一部や学んできた時間の一部分のみで学びの全過程での高まりを意識していない子が多い。学びの全過程で価値観の広がりや創造性の高まりを認識するためには、「初めの自分」と題材を通して「どんな作品にしたいか」「どんな自分になりたいか」「そのために何をしていくか」そして、「変容したのはどうしてか（変容しなかったのはどうしてか）」まで学びの中で意識する必要があるのではないかと考えている。これらを意識づけることのできる題材の設定、学習のあり方、学習カードの位置づけなどこれから考えていかなければならぬ。

④ ポートフォリオ的な評価にかかわって

子どもは、毎時間、設問にしたがって書き込みをしたり、製作途中の作品の記録写真を貼ったりした学習カードを学習の記録として残してきた。持ってきた材料や話し合いで気づいたこと、がんばったこと、困ったことなどその時その時の気づきや思いの足跡を残してきた。このポートフォリオ的な評価について効果的な点、および問題点を子どもと教師の立場から、そして1学期末に集約した子どものアンケートからこの評価に対する子どもの意識についてまとめておく。

そして、これから課題について触れていく。

効果的な点	子どもの立場から	教師の立場から				
	自分の足跡としてその時の思いや考え方などを 作品以外のものを得ることができる	子ども一人一人の思いを知り 適切な支援の計画を立てることができる				
問題点	製作過程でもよさや課題を見つけ 今度に生かしていく 文字情報以外の写真や絵 図で視覚的に 自分の足跡を見つめることができる	学習の深まりを把握することができ より深まりのある 学習計画になるように見直すことができる				
	互いの学習カードを見合う中で 様々な思いや考えに触れることができる 教師の添削や友だちのアドバイスなどにより、 製作の方向性を客観的に見直すことができる	見方、考え方方が広がるよう 子どもの思いや考えが把握できる 授業観察と合わせて より客観的に子ども一人一人の 思いや考え、その子らしさを見つめることができる				
質問項目	子どもの立場から	教師の立場から				
	製作の時間を削られてしまう 慣れと飽きにより單一的な記述になつたり 消極的な記述 になつたりして足跡としての役割を果たさない 書いたことにこだわり 新しい視点を持つことができないことがある 書いたことにこだわらなくなることで 足跡としての役割を果たさない	毎回の添削・分析・記録・考察・保管など 時間と労力を要する				
子どもからのアンケートより						
毎時間ふり返りカードを書いてきました。書いて「よかったです」と思うことは何ですか？						
当てはまるものはいくつでも。 (無記名による選択式 3、4、複式、5、6年 計275名中 248名回答 回答率 90.2%)						
<table border="1"> <thead> <tr> <th>人 数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>104 友だちのよいところを見つけて 自分に生かせた</td> </tr> <tr> <td>146 今まで何をやってきたか振り返ることができた 勉強したことを思い出せる 前のこと思い出せる 前の勉強のところが使えた</td> </tr> <tr> <td>126 5 22 2 次回のめあてもしっかり持てた 気づいたことを書くことが多くなりとてもよかったです</td> </tr> </tbody> </table>			人 数	104 友だちのよいところを見つけて 自分に生かせた	146 今まで何をやってきたか振り返ることができた 勉強したことを思い出せる 前のこと思い出せる 前の勉強のところが使えた	126 5 22 2 次回のめあてもしっかり持てた 気づいたことを書くことが多くなりとてもよかったです
人 数						
104 友だちのよいところを見つけて 自分に生かせた						
146 今まで何をやってきたか振り返ることができた 勉強したことを思い出せる 前のこと思い出せる 前の勉強のところが使えた						
126 5 22 2 次回のめあてもしっかり持てた 気づいたことを書くことが多くなりとてもよかったです						

アンケート結果からも学習カードによるふり返りが自らの学びに有用であったと感じている子どもの意識が見られる。特に「自分がどれだけがんばったかわかった」に146人の子どもが答えている。このことは、自由な方向性を持ち、一つのことに対して「開かれ、広がっていく」図画工作科の学習において、見つめにくく自分の変容を学習カードによるふり返りで一部分ではあるが見つめることができたと言える。しかし、問題点としても指摘したが、面倒であったと感じた子が22人いたこと、よかったですと思うことはないと感じている子が5人いたことは、今後のふり返りのあり方を考えていく指針となるように感じている。前述と重なるが、学びの全過程で価値観の広がりや創造性の高まりを認識するために「初めの自分」と「どんな作品にしたいか」「どんな自分になりたいか」「そのために何をしていくか」そして、「変容したのはどうしてか(変容しなかったのはどうしてか)」を意識づけることのできる、子どもにとって意味のある、必要感のあるポートフォリオにしていかなければならないと考えている。